

概要版

人と人とのつながりが育む 住みよいまち・ささはら

平成 28 年 2 月
笹原小学校地区 地域ビジョン



笹原小学校区は、多くの世代の方の交流の場となっている笹原公園をはじめとする、緑地、公園が見られるとともに、田畑、自然が随所に残され、買い物、医療、子育て環境等、非常に住みやすい環境が保たれています。こうした環境は、自治会や様々な活動団体等による清掃等の活動が下支えとなっています。

これからも、安全・安心で住みよいまちであり続けるために、「向こう三軒両隣」のご近所づきあいから小学校区へと、人と人とのつながりの輪を広げていくことが、高齢者の助け合いや、子どもの安全確保、犯罪の抑止、交通安全対策、災害に対する備え、にぎわいづくり等、あらゆる面で重要となります。

そこで、コミュニティ笹原協議会では、人と人とのつながりに主眼を置き、子どもから高齢者まで幅広い世代にとってより住みよいまちであり続けていくことをめざします。

笹原小学校区の現況

地域の概要

笹原小学校区は、伊丹市の南西部に位置し、安堂寺全域、車塚全域、野間全域、南野 2 丁目から 6 丁目、南野北全域からなります。人口 17,417 人、6,612 世帯が暮らしており(平成 22 年国勢調査)、伊丹市 17 小学校区中では伊丹小学校区に次いで 2 番目に多く、市全体の人口の約 9%を占めています。

「笹原」という地名は、紫式部の娘、大弐三位が「ありま山 みな笹原 風吹けば いでそよ人を 忘れやはする」と詠んだ歌枕「みな(猪名)の笹原」に由来しており、平安時代に「野間荘」として登場する等、「野間」「南野」等の集落は古くから存在していました。行基ゆかりの社寺、有馬道、南野地域に古くから伝わる兵庫県無形民俗文化財「摂州 兵庫 功德 盆踊(むぎわら音頭)」等、まちなかには様々な時代の面影が残されています。

戦後までは見渡す限り田畑が広がっていましたが、昭和 30 年代から徐々に宅地開発が進み、現在は戸建て住宅を中心に住宅地が広がっています。

平成 18 年に整備された地域の中心部に「笹原公園」や、複合施設「ラストホール」等、子どもからお年寄りまであらゆる世代にとって生活しやすい環境が整っています。また、校区内には 4 つの共同利用施設があり、サロン、集会、サークル活動等に使われています。



まちづくりの現状と課題

まちづくりとして取り組むべき課題を、まちづくりアンケート、まちあるき、3 回の意見交換会ならびに地域ビジョン委員会での議論を経て、以下の 3 点に整理しました。

1 住みよい環境と良好なコミュニティ活動の継続

- 笹原小学校区は、笹原公園をはじめ多くの緑地、公園、田畑、自然に囲まれ、静かな環境が保たれた地域です。
- 環境維持のため、自治会や各活動団体等の清掃活動やごみの管理が行われています。
- 歴史が感じられる社寺等が残され、伝統文化も継承されています。
- 今後も環境や伝統を維持、継承し、よりよい住環境をつくっていくため、若い世代等にも活動への理解と参画の促進、市や各団体間の連携、協働による取り組みが求められています。

2 「向こう三軒両隣」の関係づくり

- 高齢化やライフスタイルの変化によって、「向こう三軒両隣」と言われた日本のよき文化が薄らぎ、住民同士のつながりの希薄化や地域活動への関心の低下を感じている人が増えています。
- 笹原小学校区の高齢化率は、伊丹市全域より高く、また高齢化の速度も早い状況にあります。ひとり暮らしの高齢者や要介護者の割合は市全域よりも低くなっていますが、それぞれの人数は増加傾向にあります。
- 今後ますます進行する高齢化に対応し、子どもを巻き込む犯罪や交通事故、災害への対応を進めていくうえでも、「向こう三軒両隣」で日頃からの声かけ、助け合いができるような関係づくりが求められています。

3 地域活動の担い手・新たな住民の参画促進

- 「笹原まつり」をはじめとした様々な活動において、活動の担い手が減少、固定化しているという声があがっています。
- 新たな活動のアイデアがあげられたとしても、現在地域活動に関わっている方の負担増加につながるため、次の一歩が踏み出せない状況にあります。
- 地域のお困りごとを助けるボランティア活動の仕組みとして「笹原ボランティアセンター(ささボラ)」等の取り組みがありますが、地域住民に十分に知られておらず、利用が伸び悩んでいます。
- 今後は地域に埋もれている人材の掘り起こしや、地域活動の周知、新たに地域活動に参加したいという方が気軽に参加できるような組織体制の整備等が課題となっています。

コミュニティ笹原協議会とは

コミュニティ笹原協議会は、住民相互の交流と住民主体の文化、学習、健康増進、福祉活動を促進するとともに、良好な環境づくり、防災・防犯体制の確立、次世代育成によるコミュニティ活性化のための活動を実施し、住民が連帯してコミュニティづくりに寄与することをめざしています。

校区内の関係団体、委員

○19の自治会 ○民生委員・児童委員 ○笹原小学校 PTA ○笹原中学校 PTA ○すこやかネット SSS 推進協議会
○スポーツクラブ21ささはら ○老人会 ○子ども会 ○少年補導委員 ○保健衛生推進委員 ○笹原公園運営委員会
○笹原ボランティアセンター（ささボラ）

専門部会

総務部会	青少年部会	福祉部会
生活環境部会	高年者部会	広報部会

部会を問わない取り組み

地域コミュニティ基盤強化事業や笹原まつり等の活動については、部会を問わずにコミュニティ笹原協議会全体で取り組んでいます。

笹原小学校区の地域づくりのめざす姿と活動方針と行動計画の概要

地域ビジョンを実現していくには、「向こう三軒両隣」の関係をつくり、地域自治の組織力の強化（しくみ）、それを支える住民の一体感、参画意識が欠かせません。住民間の交流、親睦を促進させ、笹原小学校区全域で一体感をもてるように、地域自治の活性化を図り（しかけ）、笹原公園や各共同利用施設等（拠点）を活用しながら、各分野における活動を推進していくこととします。

様々な地域の課題を



地域自治のしくみ



地域活動のしかけ



地域の拠点



を使って
解決し

人と人とのつながりが育む 住みよいまち・ささはら をめざします

笹原小学校区は、平成 27 年度の伊丹市高齢者実態調査によると、伊丹市内 17 小学校区の中で、高齢者が最も多い校区となっています。また、伊丹市全体の障害者手帳の所持者は、年々増えています。このことは、安全・安心なまちづくりの観点から、笹原小学校区の未来を考えるうえで重要なポイントです。また、福祉の分野では、地域社会を支える法律や制度はもちろん必要ですが、それ以上に「向こう三軒両隣」のご近所づきあいや関係づくりが地域社会を支える上でとても重要になると考えています。

(1) 健康づくりの拡大

「笹原小学校区の住民は元気で医者要らず」といわれるような地域をめざして、高齢者等の健康づくりに向けた取り組みを進めます。

事業計画	種類	担当	取り組み時期
健康増進の運動等の継続実施	既存の継続	検討中	短期
健康に関する講座の継続実施、充実	既存の継続	検討中	短期
公園の健康遊具の充実とその活用	新規	検討中	短期～長期

(2) 高齢者や障がい者の集いの場、交流の場づくり

ひとり暮らし高齢者や障がい者の参加促進に向け、集いの場、交流の場づくりを行います。これらの取り組みについては、情報の発信が大きな課題の一つであるため、検討を重ねていきます。

既存のサロン等の充実、参加促進	既存の拡大	検討中	短期～長期
シルバー学習会	新規	検討中	短期
昼食会の実施	既存の拡大	検討中	短期

福祉部会・高齢者部会の既存の取り組み

福祉部会では、ふれあいの旅、新年会等の行事を通じて交流の機会をつくっています。

高齢者部会では、クリスマス会や七夕祭り等を通じて、高齢者と地域の子どもたちとの交流を図っています。

福祉部会 ふれあいの旅 ▶



(3) 要支援者の支援、見守り、助け合いのしくみづくり

要支援者に対する見守り活動の拡充	既存の継続	検討中	短期～長期
ささボラの充実、活性化、PR の強化	既存の拡大	検討中	短期
市の住民サービスの周知拡大	既存の拡大	民生委員児童委員、自治会、市	短期

笹原ボランティアセンター（ささボラ）

笹原ボランティアセンターは、笹原・鈴原地域包括支援センター（ラストホール 1 階）に相談窓口を置き、地域の高齢者や障がい者等、支援を必要とされる方々の様々な“お困りごと”に対して、登録ボランティアの方々の協力を得て、解決をしようと活動をしています。

しかし、現状では地域の方の利用が伸び悩んでいます。利用者の拡大に向け、今後 PR を強化し、より多くの地域住民に利用してもらえるものに、活動を活性化させていきます。

伊丹市は阪神・淡路大震災での大きな被害や、豪雨による冠水、浸水被害を受けてきましたが、幸いなことに、笹原小学校区はこれまで比較的災害が少ない地域です。

しかしながら、今後 30 年以内の発生確率が 70%とされる南海トラフ巨大地震やゲリラ豪雨等の自然災害の発生等『緊急時、災害時に対する地域での備え』を、しっかりとっておかなければなりません。

「自分の命は自分で守る」「自分たちの地域は自分たちで守る」という考えのもと、一番小さなコミュニティである「向こう三軒両隣」での日頃からの「声かけ」、「助け合い」を核として、「自治会単位」に広げ、さらに「笹原小学校区単位」へと、人と人とのつながりの輪を広げていくことが、地域の安全・安心につながると考えています。一人ひとり、あるいは家族で自治会等の活動や行事に参加し、地域交流・多世代交流を深めていくことが大切であり、そのこと自体が災害に対する備えそのものとなります。

(1) 緊急時、災害時に対する地域での備えの充実

事業計画	種類	担当	取り組み時期
高齢者や障がい者等、災害時要援護者の把握と日頃からのお互いの声かけ	新規	検討中	短期
自治会、各家庭での「非常用持ち出し品」等の備蓄啓発	新規	検討中	短期
地域交流や多世代交流を深めるための行事の実施	既存の継続	検討中	短期
防災に関する出前講座の活用(隣近所の協力関係づくり)	既存の継続	コミ協、自治会	短期
共同利用施設等へのAED等の設置、AEDを使用した救急講習会の実施	既存の継続	総務部会(新部会)、市	短期
AEDの設置場所等を含めた地域防災マップの作成	新規	総務部会(新部会)、自治会、市	短期～中期
各種情報を把握し、地域へ伝達(周知と共有)するためのシステムづくり	新規	検討中	短期

(2) 防災訓練の実施

自主防災合同訓練への参加促進	新規	検討中	短期
避難訓練の実施(市の実施する事業の活用、応急手当の技能習得等)	既存の継続	総務部会(新部会)、自治会	短期
自治会単位の小規模訓練の実施(「向こう三軒両隣」での協力、グループ内での共助)	新規	総務部会(新部会)	短期

自主防災合同訓練への参加促進

防災では、多くの人、多世代の人に身近に感じてもらい、いざという時に役立つ訓練を継続して実施していくことが大切です。また、訓練に参加し体験することが防災意識の向上に大きくつながります。

そこで、現在笹原小学校で市と協働して実施している自主防災訓練を、隔年で笹原公園でも実施するように調整し、多くの住民の訓練への参加を促進します。

笹原小学校での自主防災訓練 ▶



(3) 緊急時に備えた体制づくり

コミュニティ笹原協議会の防災体制づくり ※「8. 地域自治の強化(広報・財源・人材・組織)」にも掲載	新規	コミ笹	短期～中期
市の防災情報の周知、活用	既存の拡大	検討中	短期
尼崎市と連携した避難計画の検討	新規	総務部会(新部会)、市	中期

コミュニティ笹原協議会の防災体制づくり

課題となっていることは、コミュニティ笹原協議会に緊急時にも対応できる「部会」が設置されていないことです。平常時は現在の担当部会である総務部会で対応できますが、緊急時には支障をきたすことになりかねません。そこで、防災部会の設置や、人材の確保、そのための情報発信の方法等を検討するとともに、市との協力体制をより強化していきます。

笹原小学校区は、自然豊かな田畑、街路樹、桜並木、管理が行き届いた笹原公園をはじめ、多くの緑地、公園や歴史が感じられる社寺、蔵造り等が存在し、静かな環境が保たれた地域です。こうした住みよい環境を保全、整備し、さらに魅力ある地域として住みやすい環境を整えるため、清掃・美化活動の推進や自然や生き物との共存、住環境の整備等が地域住民の皆様から求められています。

笹原小学校区では、コミュニティ笹原協議会の専門部会として、各自治会において選任された保健衛生推進委員により「生活環境部会」を組織し、保健衛生・生活環境に関する事項について各自治会と連携を図り「保健衛生・環境美化の向上」を促進するため行政、関係団体と一体となり「健康で明るいまちづくり」に向けた活動を推進しています。

(1) 清掃・美化活動

事業計画	種類	担当	取り組み時期
市内一斉清掃の継続実施	既存の継続	生活環境部会	短期
各自治会の清掃活動の継続実施、子どもや子育て世代の参加促進	既存の拡大	自治会	短期
安全・安心見守りカメラ設置によるポイ捨ての抑止（関係部会との連携、相談）	既存の継続	生活環境部会	短期

(2) ごみ分別・減量・散乱防止への取り組み

家庭でのごみ分別・減量活動の啓発、既存の集団回収の継続実施	既存の継続	自治会、子ども会	短期
家庭用生ごみ処理機の設置促進	新規	検討中	長期
高齢者のごみ出し負担の軽減 フリーマーケット等の実施による不用品の交換、リサイクルの推進	新規	自治会、ささばら	短期
フリーマーケット等の実施による不用品の交換、リサイクルの推進	新規	検討中	長期
ごみの散乱防止に向けた取り組み	既存の継続	検討中	短期

(3) 美化意識向上に向けた取り組み

既存の講習会、研修会、環境学習の継続	既存の継続	生活環境部会、自治会、笹原公園運営委員会	短期
--------------------	-------	----------------------	----

生活環境部会の主催する勉強会、現地研修会

生活環境部会では、美化意識向上に向けた勉強会や現地研修会（見学会）等を実施しています。

平成27年度は、ごみの分別・減量、カラス対策等についての勉強会や伊丹市千僧浄水場、豊中市伊丹市グリーンランドでの現地研修会を実施しました。

豊中市伊丹市グリーンランドでの現地研修会 ▶



(4) 自然や生き物との共存

緑化活動の継続（コミュニティ花壇の維持管理）	既存の継続	自治会、PTA、老人会等	短期
笹原公園での緑化活動の周知、拡大実施	既存の拡大	笹原公園運営委員会	短期～長期
街路樹の整備	新規	生活環境部会	短期
地域猫活動、糞の始末の見回り等	新規	生活環境部会	長期

(5) 住環境の整備・保全に対する取り組み

マンションの高さ制限等への対策の検討	新規	検討中	長期
--------------------	----	-----	----

犯罪被害は、何の前ぶれもなく、いきなり起こるものです。登下校中の小・中学生を狙った犯罪、ひったくり、空き巣、詐欺等によって、誰もが犯罪の被害者になる可能性をもっています。自分自身で犯罪等から身を守ることはもちろんですが、近隣や地域住民の方々の理解と協力により、犯罪から身を守ることができます。

また、入り組んだ道が多く、自転車等の通行量の多い笹原小学校区では、少しの気の緩みが交通事故につながります。車、自転車、歩行者が互いに交通ルールを守り、行動すれば交通事故を防ぐことができます。

(1) 子どもの安全確保

事業計画	種類	担当	取り組み時期
登下校時のパトロールの実施	新規	ボランティア、PTA、(新部会)	短期
警察との連携(取り締まり、パトロールの協力依頼)	既存の継続	(新部会)	短期～長期
子ども 110 番協力先の周知拡大	既存の継続	検討中	短期
各家庭での子どもの安全確保の取り組み啓発	新規	学校、(新部会)	短期
安全・安心見守りカメラの位置情報通知サービスを活用した見守りの推進	新規	学校、(新部会)、市	短期～中期

安全・安心見守りカメラの位置情報通知サービスを活用した見守りの推進

今後、笹原小学校区に 50 台の安全・安心見守りカメラが設置されます。それと同時に位置情報機能も取り付けられるので、位置情報通知サービス(まちなかミマモルメ)を活用した見守りを推進します。

(2) 犯罪の抑止

高齢者をターゲットとした犯罪の防止に向けた、「向こう三軒両隣」の関係強化	新規	自治会	短期～中期
各家庭への犯罪抑止への取り組み啓発	新規	検討中	中期
安全・安心見守りカメラの設置場所検	既存の継続	コミ笹	短期
空き家・空き地対策	新規	検討中	長期

空き家・空き地対策

高齢化の進展に伴い、地域内においても空き家が増加しています。空き家の増加は、地域の防犯、防火上の大きな問題であり、対策が必要ですが、法的な面等で活用においても多くの課題があることから、中長期的に検討していく必要があります。まずは、空き家・空き地の状況を把握し、地域住民の要望、苦情等を取りまとめることや、福祉やイベントの拠点としての活用等を検討します。

(3) 交通安全の推進

路上での自転車等への交通安全指導	新規	検討中	中期
学校での子ども向け自転車交通安全教室の開催	既存の拡大	コミ笹、PTA、学校	短期～中期
大人のための自転車交通安全教室の開催	既存の拡大	検討中	短期～中期
自転車保険加入の必要性を周知徹底	新規	検討中	中期

大人のための自転車交通安全教室の開催

現状として、子どもの前での大人の交通マナーが悪いという課題があります。特に、歩行者や自転車の信号無視、スマートフォンをしながらの歩行や自転車走行等、マナーを守らないことから、交通事故が発生しています。そこで、大人のための自転車交通安全教室を開催し、大人の交通ルールの徹底、意識の向上を図ります。

(4) 道路等の整備

パトロールによる危険個所の把握	既存の継続	PTA、ふれあいの会	短期
-----------------	-------	------------	----

(5) 防犯、交通安全活動の体制づくり

防犯、交通安全活動に取り組む新たな部会の設置 ※「8. 地域自治の強化(広報・財源・人材・組織)」にも掲載	新規	検討中	短期
--	----	-----	----

地域の人々が互いに生き活きと交流できる場を持って一体感を得ることは、住み良いまちを形づくっていくための大きな力の1つとなります。

しかし一方で、まちづくりアンケートでは「にぎわい」や「イベント」による活性化への関心は高くありませんでした。

コミュニティ笹原協議会は、これまで笹原まつりの他、もちつき大会、スポーツイベント、健康講座等の催しを行ってきましたが、住民間の親睦には、校区全域的なイベントより、もっと身近な各自治会、各共同利用施設での活動に期待が寄せられていると考えられます。また、この幾分のすれ違いが、従来のイベントにおける内容のマンネリ化や参加者の偏り、運営団体担当者の負担感、違和感にもつながっていると思われます。

これらを踏まえて本ビジョンでは、地域活性化を「住みよいまちを共につくっていく住民間の交流促進と一体感の醸成」とあらためて位置付けた上で、

①身近な住民間の交流、親睦を促進する様々な活動の支援を推進する

②校区全域の一体感とコミュニティ笹原協議会の存在を広く住民が共有できる場を、笹原まつりの改革、充実の中で追及する

の2点を活動の基本方針と設定しました。

住民の皆様によるアンケートの声、意見交換会でのご意見、アイデアも踏まえ、地域住民が広く活性化を実感できるように、次の取り組みを具体化していきます。

(1) 各自治会、各共同利用施設での交流、諸活動との連携、支援

各自治会、各共同利用施設では従来から、秋祭り、バス旅行、各種サークル活動等、住民間の交流、親睦につながる様々な活動が行われています。また、笹原公園運営委員会による蝶観察会や環境体験学習、南野地区むぎわら音頭保存会による「摂州兵庫功德盆踊（むぎわら音頭）」の継承活動も、それぞれ活発です。

コミュニティ笹原協議会では、こうした様々な自主的活動について、さらなる活性化や相互交流を促進するあり方を追求します。

事業計画	種類	担当	取り組み時期
各自治会、各共同利用施設での活動への支援（相互の情報交流や活動交流等）	既存の拡大	検討中	短期～中期
既存の地域のまつりとの連携	既存の拡大	検討中	短期～中期
地域の歴史・伝統を学び、伝える機会づくり	新規	検討中	短期～中期

(2) 様々な人が参画・交流できる場づくり

笹原小学校区では現在、笹原まつりが地域住民の多くが参加する地域最大の行事であり、笹原公園が多くの世代が交流する場となっています。これら笹原まつり、および笹原公園の活動（7. 地域拠点に具体記載）を軸とした催しの活性化を進めます。

笹原まつりの改革、充実	既存の拡大	検討中	短期～中期
笹原公園の活用方法の検討 ※「7. 地域拠点」にも掲載	新規	検討中	短期～中期

笹原まつりの改革、充実

- 笹原まつりは、その意義と方針を明確にした上で、
- ①様々な世代の参加者が真に楽しんで「リピーター」になることを第一の目標に、
 - ②企画、運営を活性化させ、交流活動の一部と位置付けて「意志ある人」「できる人」がうまく集まる仕組みを追求し、
 - ③結果的に充実したイベントとなって、参加者の中から意志ある人がさらに生まれて企画、運営に加わってくる好循環が実現すること
- を中期的な目標として実施します。

笹原まつり ▶



(3) 自主的な活動の促進に向けた体制整備

効果的、現実的な企画、運営には、広く住民の方の意志、発想、行動力が必要との観点から、これを促進、支援する体制を検討します。

広く住民の意志、発想、行動力を活かす体制の検討	新規	検討中	短期～中期
-------------------------	----	-----	-------

笹原小学校区は、市内で 3 番目に児童・生徒数が多く、どこにいても子どもの声が聞こえるといえるほど、活気のある地域です。しかし、ここ数年児童・生徒数が減少傾向にあり、また、子育ての環境整備に必要な課題が多々あります。

『子どもは地域の宝』『今後の笹原を支えていく人材』との観点から、学校・家庭・地域が一体となって育てていくことを主眼に置き、以下の 3 つの活動を進めていきます。

(1) 登下校時の見守り強化

近年、声かけ、つきまとい事案の増加や、交通量の多さから登下校時の危険性が高まっている現状があり、気軽に注意し合い、見守りができる体制づくりが必要となっています。

「気軽に」という関係をつくるためには、顔なじみになって、声を掛けやすい風土づくりが必要であり、現在行われているあいさつ運動(すこやかネット SSS 推進協議会、各校での取り組み)に地域の方も参加していただき、親近感の持てる地域性を醸成します。また、統一した腕章を身につけ、登下校時の自宅前や散歩等によるあいさつ挨拶運動、見守り活動を展開します。見守り旗当番についても地域全体で考えていきます。

事業計画	種類	担当	取り組み時期
あいさつ運動強化	既存の継続	検討中	短期

(2) 子どもの遊び場確保、子どもの健康促進

笹原小学校区では、子どもがボール遊びできるスペースが少ないため、平成 27 年度より笹原小学校の校庭開放が、これまで月1回だったのが、毎週火曜日に拡大されました。しかし利用するには、一旦下校しなければいけないことや、自転車での来校及び駐輪が禁止されている等のルールがあるため、利用が少ないのが現状です。また公園では、ゲーム機での遊びが目立ち、走り回っての集団遊び等が少なく、体力不足の子どもが増加しています。

そこで、校庭開放のルールの緩和、体育館開放の拡大による利用促進と遊び場拡充、また、スポーツクラブ 21 ささはらの活用による子ども達の健康促進と指導者育成を支援していきます。

小学校の校庭開放、体育館の有効活用、スポーツクラブ 21 ささはらの連携強化	既存の拡大	検討中	短期
--	-------	-----	----

(3) 子育て支援の充実

体力と共に、学力向上も大きな課題です。高校入試の学区拡大、学習指導要領の改訂、幼・小・中の連携強化、大学入試方法の変更等、子どもたちを取り巻く学習環境も大きく変化しつつあります。

“ささっ子”が、将来、希望する進路に進めるように、学校・家庭・地域が一体となって、学習環境や子育て支援の充実、情報提供や共有化を行っていくことが望まれています。

学習習慣を身につけることや学力向上のため、地域内での教育関係者 OB、OG で協力をいただける方の発掘を念頭に、自治会単位で行なわれている事業の水平展開、市との連携等を視野に取り組みます。

「わくわくキッズ」の他の共同利用施設への拡大	既存の拡大	検討中	短期～長期
子育て支援や知恵、情報の提供、発信	新規	検討中	短期
現状の子ども会活動の整理、見直し	新規	検討中	中期
地域のコミュニティ・スクールへの参画	既存の拡大	検討中	短期～長期

わくわくキッズ

安堂寺センターにて、就学前児童を対象に、子育て中の親子が交流できる場を提供し、地域で子育てを支援しています。

安堂寺町に限らず、南野や野間等から幅広く参加されています。

現状の子ども会活動の整理、見直し

子ども会の減少による活動衰退の歯止めとして、組織の見直しや、活動の整理を検討します。

地域のコミュニティ・スクールへの参画

コミュニティ・スクールは、学校・家庭・地域がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める仕組みです。

笹原小学校区では、地域と学校と家庭の協働によるコミュニティ・スクールへの参画等により、放課後学習、土曜学習の充実につなげていきます。



▲わくわくキッズ

笹原小学校区には、公共施設であるラスタホール、笹原公園、そして地域内に 4 つの共同利用施設が地域活動の拠点としてあります。

なかでも、ラスタホールは、文化学習、図書館、デイサービス、フィットネス施設が集まった生涯学習センターとして、多くの方に利用されています。

また、共同利用施設として、安堂寺センター、あすなろセンター、南野センター、車塚センターの4つの施設があり、サロン、集会、サークル活動等に使われています。

笹原公園は、防災機能を兼ね備え、木々や草花が多く植えられた緑豊かな大規模公園です。高齢者から乳幼児まで幅広い年代の方に利用され、地域住民の認知度も非常に高く、地域にとって重要な憩いの場です。しかし、行事等での利用は少なく、大規模公園としての魅力の活用が課題となっています。

笹原小学校区におけるこのような拠点を今後どのように有効活用できるか、市の計画とも併せて、次の2つを重点に検討していきます。



(1) 共同利用施設の有効活用

短期的には、収容人員の面を考慮しながら、共同利用施設の利用状況等を積極的に情報発信し、利用率を上げるとともに交流の機会を増やしていきます。また、中長期的には、より利用しやすくするために、協力金の見直しや予約方法の簡素化等を検討します。

事業計画	種類	担当	取り組み時期
共同利用施設に関する分かりやすい情報発信	新規	検討中	短期
共同利用施設の活用方法の整理、拡大(協力金の見直し、協力金の表示、予約方法等の簡素化)	新規	検討中	中期
集まれる場や機会を増やす(三世代交流広場、学習スペースの設置)	既存の拡大	検討中	短期

(2) 笹原公園の活用促進

花や樹木の研修会、三世代間の学習(研修、情報交換会など)、さくら祭り、盆踊り、ドッグイベント等、公園の活用方法について、実現性の可否等を含め、総合的に検討していきます。



笹原公園の活用方法の検討 ※「5.地域の活性化・交流」にも掲載	既存の拡大	検討中	短期
------------------------------------	-------	-----	----

8 地域自治の強化(広報・財源・人材・組織)

テーマごとの 活動方針と行動計画

少子高齢化等の社会情勢の変化、ライフスタイルの変化等に伴い、「向こう三軒両隣」といわれた日本のよき文化が薄らぎ、住民同士のつながりの希薄化や地域活動に関する関心の低下等が大きな課題となっています。

また、自治会加入率の低下、役員の担い手不足等の課題がある一方で、高齢者、子どもの見守り、災害時の対応等、自治会に期待される役割は大きくなっていることから、組織力の強化が急務です。

これらの課題を踏まえて、以下の5つの観点から事業に取り組んでいきます。

(1) 情報発信の強化

各自治会において既存事業の充実を図り、地域住民相互のつながりを深めるとともに、4つの共同利用施設で行われているひとり暮らしの高齢者を対象とした給食サロン、誰もが集える場としての喫茶サロンを始め、各施設で多くの同好会の方々が利用している状況等、自治会長を通じて、掲示板、回覧等を利用し、積極的な情報の発信に努めます。また、将来的にはネットワークによる情報網の構築を図り、迅速な情報提供を行います。

事業計画	種類	担当	取り組み時期
掲示板の増設、場所の周知	新規	検討中	中期
SNS 専属の人材の確保	新規	検討中	中期



▲コミュニティ笹原協議会フェイスブックページ



広報笹原▶

(2) 人材の整理・確保

当地域には各方面で手腕を振るってもらえるような人材が多く存在すると思われます。そのため、各地域の人材の掘り起こしと、どこにどのようなサポートが必要なのかを整理することが必要です。

また、事業の運営は、役員がすべて企画するのではなく、やりたい人が企画して呼びかける方法にすることで、役員の負担の減少につながります。今後は広く活動への参加を呼びかけ、若年層が参加、活動しやすい体制づくりを検討していきます。

各地域の人材の掘り起こし(特技や資格保持者等に関わってもらえる組織づくり)	新規	検討中	長期
校区全体のボランティアニーズの把握と整理	新規	検討中	中期
この指とまれ方式の事業運営	新規	コミ篋	短期
行事等の担い手確保	新規	検討中	短期

(3) 組織体制の見直し

コミュニティ笹原協議会の防災体制づくり ※「2. 防災」にも掲載	新規	コミ篋	短期～中期
防犯活動に取り組む新たな部会の設置 ※「4. 防犯・交通安全」にも掲載	新規	コミ篋	短期

(4) 財源の確保

現在の活動は、会費及び行政からの助成金等を財源としており、とりわけ市や市社会福祉協議会からの収入がそのほとんどを占めています。そのような中で、市や市社会福祉協議会からの収入は、永久に保障されたものではありませんので、少なくとも現状から減額されることのないよう十分に留意していかなければなりません。将来的には、地域活動をしっかり維持させていくために、独自財源の発掘、確保も必要になると思われます。

地域活動の継続、発展に向けた財源の確保	新規	検討中	長期
---------------------	----	-----	----

(5) 自治会加入促進

自治会加入促進用の冊子を始め、今後加入率の増加に向けて検討していきます。

自治会案内、加入促進の冊子(プリント)の作成、配布	新規	検討中	中期
---------------------------	----	-----	----

今後の展望

住民の皆様にお聞きしたアンケートや意見交換会等で議論された行動計画を推進するために、

- 1 向こう三軒両隣」の関係づくりから組織力を強化する『しくみ』づくりと
- 2 地域自治を活性化させる『しかけ』、
- 3 笹原公園や各共同利用施設等の『拠点』の活用

を図ることが、めざす姿に掲げる「人と人とのつながりが育む 住みよいまち・ささはら」をつくるベースとなります。

そのため、「笹原まつり」の改革、充実を進めていくなかで、「意志のある人」「できる人」がうまく集まる「しくみ」を追求し、さらに「意志のある人」が関わっていくような好循環を目指して、具体的な検討を進めていきます。合わせて、「地域自治の強化」を進めるべく、情報発信の強化、人材の整理、確保、自治会加入促進等について着実に進めていきます。

各分野の活動については、これまでから笹原公園を中心に活発な取り組みが進められてきた「2. 防災」と「3. 地域環境・美化・緑化」は早期に取り組みを進めます。また、「1. 健康・福祉」については、市や市社会福祉協議会等の関係機関と協議、連携しながら、笹原公園、共同利用施設、ラストホール等の「7. 地域拠点」の活用と合わせて、また、「4. 防犯・交通安全」や「6. 子どもの健全育成」についても、自治会、学校、PTA 等の関係団体で協働、連携しながら、それぞれ既存の活動の継続・拡充等できるところから取り組みます。また、毎年の総会等で、適宜、事業の進捗状況を確認し、必要に応じてビジョンへの加筆や見直しを行うことで、地域住民の共感のもと、実効性の高いものでありつづけるよう、フォローアップしていきます。

「人と人とのつながり」を大切にすることで、地域の環境維持や課題解決に向けたさまざまなテーマでの活動が、より充実したものになると考えています。

地域ビジョン策定の経過

笹原小学校地区地域ビジョンの策定にあたり、平成 27 年 4 月から、毎月の地域ビジョン委員会や、まちづくりアンケート、まちあるき、3 回の意見交換会、臨時総会を実施しました。

※これまでの取り組み内容の詳細は、伊丹市のホームページにある資料をご参考ください。



伊丹市ホームページ コミュニティ笹原協議会の取り組み→
<http://www.city.itami.lg.jp/SOSIKI/SHIMIN/MACHI/com/model/sasa/>

笹原小学校地区 地域ビジョン（概要版）

人と人とのつながりが育む 住みよいまち・ささはら

作成・発行 コミュニティ笹原協議会
編集協力 伊丹市まちづくり推進課、街角企画株式会社
発行年月 平成 28 年 2 月（2016 年）

コミュニティ笹原協議会の最新情報はこちらから
【コミュニティ笹原協議会フェイスブックページ】→

